

漁況予報 いわし

第106号

2001年7～8月漁期
(2001年7月3日発行)

＝ 概況 ＝

まいわし

5月はマイワシの来遊が殆ど見られず、定置網・まき網ともに漁獲のないまま経過しました。6月に入り、相模湾において昨年よりも約半月遅れでまき網で大羽イワシの漁期入りとなりました。佐島地区で5～30トン／統／日、鴨居地区で同10～60トンの漁獲水準となっており、単価は6月上旬で400～500円/kgでしたが、中・下旬は200～400円/kgで推移しています。一方、定置網は、大楠地区で中旬に30トン／日の漁獲が数日続いた以外は漁のない状態ですが、下旬から一部地区でヒラゴの入網が始まりました。なお、6月下旬現在、東京湾では未だ大羽イワシの来遊は見られません。マイワシの資源状態が悪いことから、今漁期も昨年以上に厳しい漁模様となるでしょう。

かたくちいわし

4月以降、昨年以上にカタクチイワシ産卵群の来遊があり、定置網・まき網ともに昨年以上の漁獲がありました。佐島地区のまき網(3統)は、5月までカタクチイワシ主体の操業を行い、5月だけでも昨年の3倍以上の漁獲を記録しました。これは過去10年の中でも最高の漁獲水準となります。ただし、餌イワシに不適な大型成魚が多かったため、2統は漁獲物の殆どを市場に水揚げしました。また、東京湾の定置網にも例年以上の入網があり、餌イワシとして生簞で活かしています。

しらす

4月中旬以降全域で好漁となったシラス漁は、昨年と違って5月に入っても引き続き好漁を維持し、東部地区で100～500kg／統／日、奥部で同300kg～1トンで中旬まで推移しました。魚種組成は、4月一杯はマシラスも3割程度混じっていましたが、5月中旬以降はカタクチシラス一色になりました。5月下旬になり、全域で魚体は大きくなっていき漁獲水準は徐々に落ちていきました。6月に入り、東部地区ではさらに不漁となり中旬まで切れた状態となりましたが、奥部では300kg／統／日前後の漁がありました。ところが、下旬になると東部地区で全長25mm未満の新たな群れの加入があり好漁となった一方で、奥部ではタル2～3本／統／日と不漁になっています。

＝ 予報 ＝

まいわし

今漁期は、前漁期に引き続き大羽イワシ(3歳魚)及び中羽イワシ(2000年級群)が主体となります。また、ヒラゴも定置網中心に漁獲が期待できるでしょう。今漁期の漁獲量は、約2,860トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網+まき網

かたくちいわし

今漁期は、未成魚及び小型成魚が漁獲の主体となります。ここ最近、原因は不明ですが、夏以降の漁が伸びない状態が続いています。今後はこの点に注目していく必要があると思われる。今漁期の漁獲量は、約50トンと予測されます。

しらす

今漁期は、5～6月生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。5・6月とも卵は昨年よりも採集量が少なくなっています。今漁期の漁獲量は、1998年並の約120トンと予測されます。

過去5年の7・8月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

